

28日閉会の定例議会に1000人超の市民から提出されていた、「加齢性難聴者の補聴器購入の補助制度創設を求める請願」は本会議採決で、反対多数で不採択となりました。切実な願いであるだけに誠に残念です。小菅康子議員の請願の賛成討論の要旨をご紹介します。



## 1071名から寄せられた切実な願い

# 難聴補聴器購入補助請願

長年、地域や家庭・社会に貢献された高齢者に

生きがいの持てる社会は行政の責任

小菅康子議員  
賛成討論です

「加齢性難聴者の補聴器購入に対する補助制度の創設を求める請願」につきましての賛成討論を行います。野洲市でも年々高齢化率が高くなり、「耳が遠くなった。話が聞きにくく、家族の話に入れない」「外に出るのがおっくうになった。」など日常生活のなかで困っているという声を多く聞きます。中には家族や地域社会の中で孤立感を持つておられる方も少なくありません。加齢性難聴による機能の低下は、日常生活を不便にし、コミュニケーションを困難にするなど、生活の質を落とす要因となり、鬱や認知症発症のリスクになると言われています。

国では医療の問題として公的補助が行われており、補聴器使用率が高くなっていますが、日本は全額自己負担のため、使用率が低いのが現状です。高齢者になっても生活の質を落とさず、心身共に健やかに過ごすために、難聴となった早い時期から適切に補聴器を使用することが、認知症の予防となり、健康寿命を延ばし、ひいては医療費、介護費の抑制にもつながると考えます。

国では医療の問題として公的補助が行われており、補聴器使用率が高くなっていますが、日本は全額自己負担のため、使用率が低いのが現状です。高齢者になっても生活の質を落とさず、心身共に健やかに過ごすために、難聴となった早い時期から適切に補聴器を使用することが、認知症の予防となり、健康寿命を延ばし、ひいては医療費、介護費の抑制にもつながると考えます。

本来は国制度として、国が率先して行っていた方がいいと思いますが、全国では独自に助成制度を行う自治体が増えてきています。滋賀県でも5自治体が実施しています。野洲市でも、ぜひ助成制度創設を行っていただきたいと思えます。

必要なのは長年にわたり地域と家庭、社会に貢献され、ご苦労されてきたお年寄りが、難聴のために社会に参加できなくなる、こんな思いをさせてはならない、そのために、高齢者に寄り添う行政であるべきだと思います。財源で言うなら決して多額を必要とするものではありません。以上、議員みなさんのご賛同を心からお願ひ申し上げまして私の賛成討論とします。

難聴の改善には早い段階から補聴器を使用することが有効と言われていますが、補聴器は保険適用がなく高額で、年金生活の高齢者の多くの人は購入することが難しいのが現状です。ヨーロッパの多くの

請願を審議した9月13日の文教福祉常任委員会では、「野洲市で補助制度を実施した場合の利用者数や財源について根拠が曖昧」「なぜ加齢性難聴者だけへの補助なのか」を理由に不採択にされました。行政が新たな制度を実施する場合はそれなりの合理性が必要

定例議会の報告は引き続き、やす民報、市議会ニュースでお知らせします。



請願の態度	小菅康子	田中陽介	山本剛	村田弘行	木下伸一	津村俊二	岩井智恵子	益川教智	山崎敦志	橋俊明	東郷克己	鈴木市朗	荒川泰宏	奥山文市郎	服部嘉雄	稲垣誠亮	山崎有子	石川恵美
■ 賛成討論 小菅康子議員	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	-	●	●	●	●	●
■ 反対討論 東郷克己議員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

①=日本共産党議員団 ②=暮らしと自治を考える会 ③=民主やす ④=無会派。荒川議員は議長で採決に加わらず